

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 National Institute of Special Needs Education

我が国の特別支援教育施策への 寄与及び教育現場の課題解決 に向けた研究活動について (研究企画部)

国立特別支援教育総合研究所
(<https://www.nise.go.jp/nc/>)

研究体系と研究課題（平成28～令和2年度）

（1）基幹研究

○横断的研究

（2課題）

各障害種別を通じて、国の重要な政策課題の推進に寄与する研究（原則5年間）

- ・我が国におけるインクルーシブ教育システムの構築に関する総合的研究（平成28～令和2年度）
- ・特別支援教育における教育課程に関する総合的研究（平成28～令和2年度）

○障害種別研究

（15課題）

各障害種における喫緊の課題の解決に寄与する研究

（原則2年間）

- 例
- ・聴覚障害教育におけるセンター的機能の充実にに関する研究（平成30～令和2年度）
 - ・言語障害のある中学生への指導・支援の充実にに関する研究（平成30～令和元年度）
 - ・知的障害特別支援学級担当者サポートキットの開発（令和元～令和2年度）
 - ・社会とのつながりを意識した発達障害等への専門性のある支援に関する研究（令和元～令和2年度）

（2）地域実践研究

（8課題）

インクルーシブ教育システムの構築に向けて、地域や学校が直面する課題の解決のために、地域と協働して実施する研究（原則2年間）

- 例
- ・教育相談、就学先決定に関する研究（平成30～令和元年度）
 - ・インクルーシブ教育システムの理解啓発に関する研究（平成30～令和元年度）
 - ・多様な教育的ニーズに対応できる学校づくりに関する研究（平成30～令和元年度）
 - ・学校における合理的配慮及び基礎的環境整備に関する研究（平成30～令和元年度）

第4期中期目標期間における研究計画

		平成28(2016)年度	平成29(2017)年度	平成30(2018)年度	令和元(2019)年度	令和2(2020)年度
(横断的研究)	インクルーシブ教育システム構築	我が国におけるインクルーシブ教育システムの構築に関する総合的研究				
		評価指標(案)作成		「インクルCOMPASS(試案)」の活用の検討		園・学校等の主体的な取組を進めるための要件の検討
	教育課程	特別支援教育における教育課程に関する総合的研究				
		通常の学級と通級による指導の学びの連続性に焦点を当てて		新学習指導要領に基づく教育課程の編成・実施に向けた現状と課題		
基幹研究(障害種別)	視覚障害		視覚障害を伴う重複障害の児童生徒等の指導に関する研究－特別支援学校(視覚障害)における指導を中心に－			
	聴覚障害			聴覚障害教育におけるセンターの機能の充実に関する研究－乳幼児を対象とした地域連携－		
	知的障害	知的障害教育における「育成すべき資質・能力」を踏まえた教育課程編成の在り方－アクティブ・ラーニングを活用した各教科の目標・内容・学習評価の一体化－(H27年度～)		知的障害特別支援学級担当者サポートキットの開発・授業づくりを中心に－		
	肢体不自由			小・中学校における肢体不自由のある児童生徒への指導及び支援のための地域資源を活用した授業改善に関する研究		
	病弱		精神疾患及び心身症のある児童生徒の教育的支援・配慮に関する研究			
	言語障害	「ことばの教室」がインクルーシブ教育システム構築に果たす役割に関する実際的な研究　－言語障害教育の専門性の活用－(H27年度～)		言語障害のある中学生への指導・支援の充実に関する研究		
	自閉症	特別支援学校(知的障害)に在籍する自閉症のある幼児児童生徒の実態の把握と指導に関する研究－目標のつながりを重視した指導の検討－				
	発達障害・情緒障害	発達障害等のある生徒の実態に応じた高等学校における通級による指導の在り方に関する研究　－導入段階における課題の検討－			社会とのつながりを意識した発達障害等への専門性のある支援に関する研究　－発達障害等の特性及び発達段階を踏まえての通級による指導の在り方に焦点を当てて－	
	重複障害					
	教材・教具					
地域実践研究	【メインテーマ1】 インクルーシブ教育システム構築に向けた体制整備に関する研究	地域におけるインクルーシブ教育システム構築に関する研究				
				教育相談、就学先決定に関する研究		
		インクルーシブ教育システム構築に向けた研修に関する研究				
				インクルーシブ教育システムの理解啓発に関する研究		インクルーシブ教育システムの理解啓発の推進に関する研究
	【メインテーマ2】 インクルーシブ教育システム構築に向けた特別支援教育に関する実際的な研究			多様な教育的ニーズに対応できる学校づくりに関する研究		
				学校における合理的配慮及び基礎的環境整備に関する研究		
		交流及び共同学習の推進に関する研究				交流及び共同学習の充実に関する研究
		教材教具の活用と評価に関する研究				

第4期中期目標期間における調査研究

横断的基幹研究による調査

- ・インクルーシブ教育システムの構築に関する研究
- ・特別支援教育における教育課程に関する研究

対象：全国の都道府県教育委員会・市区町村教育委員会
幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校等・通級による指導を実施している市区町村教育委員会及び学校長・担任
調査数：横断的研究 4 調査

障害種班等の研究による調査・委託研究による調査

- ・視覚、聴覚、言語、肢体不自由、知的、自閉症、発達・情緒、重複、教材教具班による調査
- ・障害のある人の生涯学習に関する調査

対象：全国の各障害種の特別支援学校
全国的教育委員会
全国の高等学校における通級による指導にかかる業務を担当する者 等
調査数：23 調査

経年調査

- ・視覚、聴覚、言語、肢体、知的、重複班
- ・教育課程チーム

対象：全国の都道府県、市区町村及び特別支援学校
特別支援学級、通級指導教室
調査数：9 調査

都道府県教育委員会・市区町村教育委員会



全ての学校

特総研



令和元年度の研究活動

○横断的研究(2課題・平成28～令和2年度)

・我が国におけるインクルーシブ教育システムの構築に関する総合的研究

インクルーシブ教育システムの構築の成果や課題を可視化する評価指標を作成し、その検証を行い、我が国におけるインクルーシブ教育システムの構築に際して残された課題やその後の展望を示すことにより、今後のインクルーシブ教育システムの構築の進展に寄与します。

・特別支援教育における教育課程に関する総合的研究

平成28～29年度は、通常の学級と通級による指導の学びの連続性に焦点を当てた研究を行い、平成30～令和2年度は、特別支援学校、特別支援学級、通常の学級の連続した多様な学びの場における教育課程の円滑実施に向けた研究を行い、手引きとしてまとめます。

○障害種別研究(4課題・原則2年間)

・知的障害特別支援学級担当者サポートキットの開発-授業づくりを中心に- (令和元～令和2年度)

知的障害教育におけるカリキュラム・マネジメントの考え方や合理的配慮の提供方法等を専門性の具体的内容として整理するとともに、教育現場において実地的な指導の効果をもたらす、担当者の実践意欲を高めるような専門性向上のためのサポートキットを提案します。

・小・中学校における肢体不自由のある児童生徒への指導及び支援のための地域資源を活用した授業改善に関する研究(令和元～令和2年度)

校内外の体制や個別の指導計画の活用状況、自立活動の指導に関する状況等の項目を追加して現状を把握するとともに、研究協力校における実践を通して、自立活動を含めた指導の在り方やセンター的機能活用の取組を紹介し、今後の方向性について提案します。

・社会とのつながりを意識した発達障害等への専門性のある支援に関する研究 -発達障害等の特性及び発達段階を踏まえての通級による指導の在り方に焦点を当てて- (令和元～令和2年度)

適応上の様々な困難の状況の実態とそのリスク要因について把握した上で、社会とのつながりを意識した時に、①どのような専門性のある支援(通級による指導や合理的配慮を含む)が必要となるか(内容面)、また、②学校において具体的に実践をどう進めるのか(運用面)ということについて、発達段階と発達障害の特性を踏まえて検討します。

より詳しい情報はこちらから(研究紹介ウェブサイト) https://www.nise.go.jp/nc/study/intro_res

研究成果の還元

研究成果は、事例集やリーフレット等として**ウェブサイト**に掲載しており、ダウンロードして活用ができます。
 また、メールマガジンでの発信や研修事業、研究所セミナーでも普及を図っています。



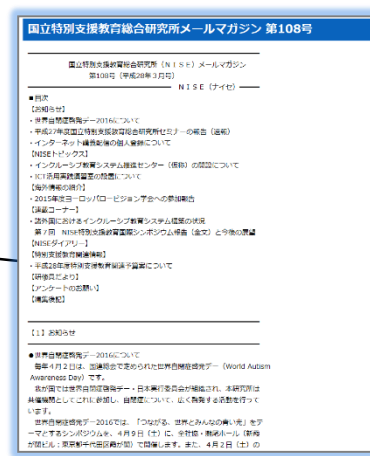
研究成果報告書



事例集



リーフレット



メールマガジン



刊行物(市販)



研修事業



研究所セミナー

研究成果についてはこちらから御覧いただけます
https://www.nise.go.jp/nc/report_material

ぜひ活用して頂きたい最新の研究成果①

(昨年3月終了 基幹研究研究成果物)

基幹研究(障害種別研究)

1. 精神疾患及び心身症のある児童生徒の教育的支援・配慮に関する研究—Co-MaMe(連続性のある多相的多階層支援)—

リーフレット 精神疾患及び心身症のある児童生徒の教育的支援・配慮に関する研究—Co-MaMe(連続性のある多相的多階層支援)— (近日発行・HP公開予定)

ガイドブック こころの病気のある児童生徒の教育支援(Co-MaMe)ガイドブック(仮称)(近日発行・HP公開予定)

2. 視覚障害を伴う重複障害の児童生徒等の指導に関する研究—特別支援学校(視覚障害)における指導を中心に—

リーフレット 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所平成29～30年度基幹研究(障害種別)「視覚障害を伴う重複障害の児童生徒等の指導に関する研究」—特別支援学校(視覚障害)における指導を中心に— (近日発行・HP公開予定)

平成29年度～30年度基幹研究（病弱教育研究班） 精神疾患及び心身症のある児童生徒の教育的支援・配慮に関する研究（平成29年度～30年度） -Co-MaMe（連続性のある多相的多階層支援）-

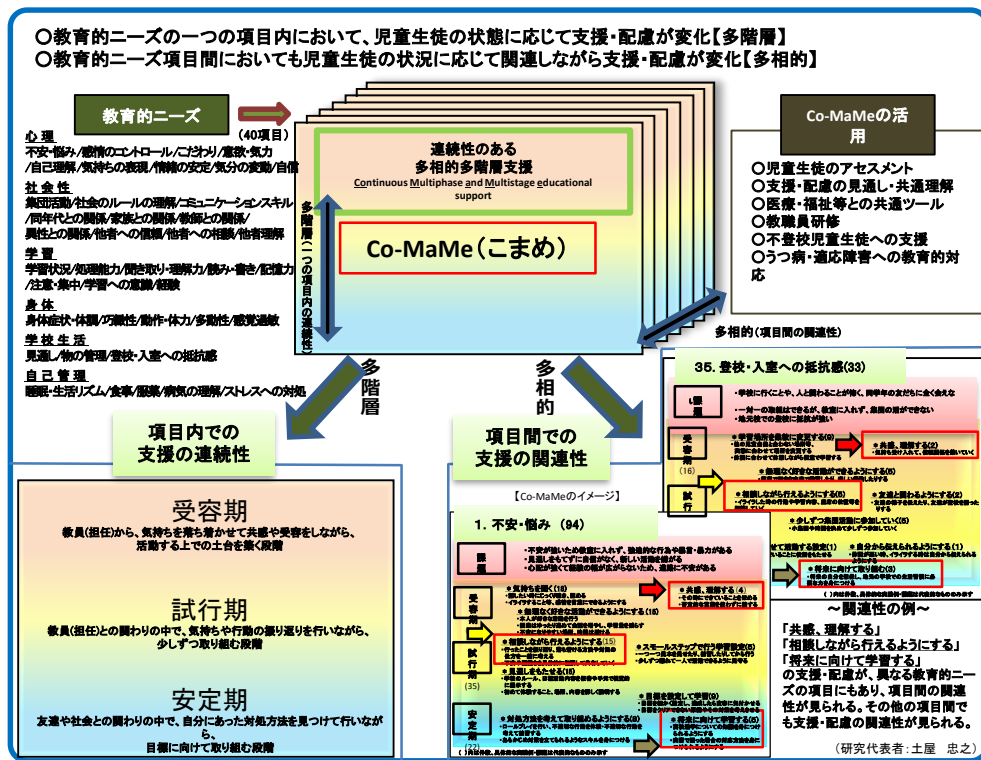
1. 目的

- 精神疾患及び心身症の児童生徒の教育的ニーズをもとに、精神疾患及び心身症の児童生徒を指導している教員から支援・配慮を集約して質的分析をする
- 特別支援学校だけではなく、小・中学校、高等学校の発達障害のある児童生徒の二次的な障害にも活用できるガイドブックを作成する（仮称、「精神疾患及び心身症の子ども教育支援ガイド」）

2. 方法

- 【調査対象】： 特別支援学校（病弱）7校に勤務する教員304名（小学部99名、中学部126名、高等部71名、その他8名）
- 【調査方法】： ○「教育的ニーズ40項目」が記載された「精神疾患ニーズ調査ワークシート」を作成、○特別支援学校（病弱）へ訪問調査、○「精神疾患ニーズ調査ワークシート」に児童生徒の教育的ニーズをチェック、○チェックした教育的ニーズから支援・配慮を記述
- 【分析方法】： ○記述を病弱教育を専門とする研究者3名で、グループ化（特別支援教育や医療の文献等を参考）、○研究協議会等にて精神科の医師や特別支援学校（病弱）の教員等から意見収集及び検討

3. 結果と考察



視覚障害を伴う重複障害の児童生徒等の指導に関する研究

—特別支援学校(視覚障害)における指導を中心に—(平成29年度～30年度)

【目的】

- 特別支援学校(視覚障害)在籍の重複障害幼児児童生徒の割合が増加している。
- 特別支援学校(視覚障害)では、重複障害幼児児童生徒への対応の比重が増している。
- 併せ有する知的障害や肢体不自由等への対応と共に、視覚障害への対応として視覚の活用や触覚の活用という視点からの指導も重要。
- ⇒視覚障害を伴う重複障害の幼児児童生徒について、視覚障害への対応という視点からの適切な指導内容や指導方法等を示すことを目的とした。

【方法】

- 全国実態調査: 全国の特別支援学校(視覚障害)を対象とした質問紙調査
- 指導事例の収集: 特別支援学校(視覚障害)での重複障害幼児児童生徒の視覚活用や触覚活用に関する指導事例を収集
- 実態把握の観点の整理: 視覚活用や触覚活用について実態把握をしていくための観点を整理

【全国実態調査結果から】

幼児児童生徒が併せ有する障害の割合

- ・「知的障害」(96.2%)、「肢体不自由」(29.3%)、「自閉症」(15.9%)等

視力の状況

- ・視力0の割合が30.6%、手動弁以下(視力が「手動弁」と「光覚」と「0」の合計)の割合では54.5% <触覚の活用が重要となる割合は高い>

実態把握における課題

- ・高い割合であったのは「重複障害幼児児童生徒のための適切な検査方法がない」、「適切な参考書籍やガイドブック等がない」、「実態把握に関する十分な研修の機会がない」

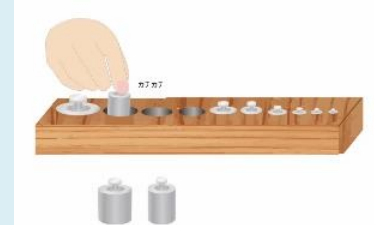
個別の指導計画に関する課題

- ・高い割合であったのは「1年間で達成可能な年間指導目標を立てること」、「具体的に達成可能な学期の指導目標を立てること」、「系統的な目標を立てること」という目標設定に関する項目

【指導事例から】

小学部盲児童の事例

- ・知的発達の遅れがあり、触覚の活用に関しては、両手の分化や、物の表面や内部を探索する手指の動き、形の弁別等に課題があった。物の表面や内部を探索する手指の動きについては、物の表面や内部をとびとびに触ることで行っており、表面等について、切れ目なく全体を触ることがみられなかった。
- ・モンテッソーリの円柱さし教材を用いた指導によって、触覚の活用が図られた。
- ・この教材の表面で穴の位置を探る手指の動きが、とびとびではなく連続してたどる動きになった。教材の表面を端から端まで触る探索的動作もみられるようになった。
- ・穴に円柱を入れてから動かして大きさを確かめたり、指を入れて大きさを確かめるために指を回転させる動きもみられるようになった。



実態把握の観点【視覚活用】 (Hall & Bailey, 1989)

視行動の種類	説明
1. 視覚的に注意を向ける行動	物を固視する、動くものを追視する、視線を移動する、何かを見つける等
2. 視覚的に調べる行動	物や人の顔、絵等が何であるか視覚的に調べる、調べてそれと分かる等
3. 視覚的にコントロールされた運動	物を見て手を伸ばす、視覚を用いて移動する、動作を模倣する等

触覚活用についての観点としては、「1. 探す」(手で物を探す。), 「2. 調べる」(何かの上で手を動かして触覚的な特性についての情報を得る。), 「3. 操作する」(物を意図的に動かすこと。)等 (Smith and Levack, 1996)

【まとめ】

- ・特定の活動(上記のような教材を用いた課題の他、歩行、作業等)の中で視覚活用や触覚活用の実態を詳細に把握して、それらの活用を促すことが重要であると考えられる。
- ・本研究では特定の活動のなかで視覚活用や触覚活用についての実態把握を行うための観点も示した。
- ・このような実態把握が、具体的に達成可能な指導目標の設定や、その目標達成のための適切な指導内容・指導方法の設定にもつながるものと考えられる。
- ・本研究では知的障害、肢体不自由等への対応を踏まえて視覚活用や触覚活用を促した指導事例を取り上げている。上記の事例を含めて、例えば、触覚活用についても触ることへの抵抗、手指の運動の制限、手指の微細な運動の困難等や、認知発達、音声言語の理解や発話の状況等を踏まえた対応が必要である。

ぜひ活用して頂きたい最新の研究成果②

(平成30年3月終了 基幹研究研究成果物)

基幹研究(横断的研究)

1. 特別支援教育における教育課程に関する総合的研究
ー通常の学級と通級による指導の学びの連続性に焦点を当ててー

小学校・中学校通常の学級の先生のための手引き書 ー通級による指導を通常の学級での指導に生かすー

基幹研究(障害種別研究)

2. 特別支援学校(知的障害)に在籍する自閉症のある幼児児童生徒の実態の把握と指導に関する研究 ー目標のつながりを重視した指導の検討ー

リーフレット 自閉症のある子どもの指導目標の設定・見直しにおけるポイント

3. 発達障害等のある生徒の実態に応じた高等学校における通級による指導の在り方に関する研究 ー導入段階における課題の検討ー

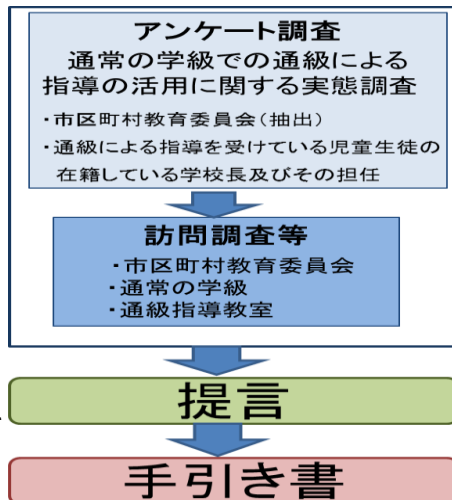
ガイドブック 高等学校教員のための「通級による指導」ガイドブック

基幹研究(横断的研究) 平成28年度～平成29年度 特別支援教育における教育課程に関する総合的研究 ー通常の学級と通級による指導の学びの連続性に焦点を当ててー

【背景と目的・方法】

通級による指導は、障害による学習上または生活上の困難の改善・克服を目的とした指導を児童生徒のニーズに応じて行うことにより、その指導の効果が通常の学級における授業や生活において発揮できるようにすることが重要である。

そこで本研究では、通級による指導の対象となる障害種について、通常の学級と通級による指導の学びの連続性に焦点を当て、右の図の1. 2. の2点を目的とした。



1. 通級による指導の教育課程上の位置付けや担当者間の連携の実態と課題を明らかにし、課題についての対応を提言する。

2. 通級による指導の内容を、通常の学級での授業や生活に生かすための視点や配慮について整理し、「手引き書」を作成する。

研究スタッフ及び研究協力者による検討

公開研究協議会にて意見収集



ジアース教育新社より発売中
ISBN978-4-86371-450-2

【提言と手引き書】

実態調査や訪問調査から、通常の学級と通級による学びの連続性を実現するための視点が明らかになり、それらを6つの提言としてまとめた。

- 提言1 情報交換・情報共有の方策の検討
連絡ノート、教材ファイル、データベースによる情報の一元化、場の設定や寸暇の活用等。
- 提言2 授業を見合う体制づくりと工夫
指導内容や指導方法等の理解につながる。公開授業、チーム・ティーチング、ビデオ活用等。
- 提言3 学校全体の取組として展開
校内研究として学校全体の取組とする(授業参観・授業改善)等。
- 提言4 地域のリソースの活用と連携
地域の人的、物的資源の活用、特別支援学校のセンター的機能の活用等。
- 提言5 研修の工夫
通常の学級担任が通級による指導の担当者と共に研修する工夫。ビデオ活用等。
- 提言6 校長のリーダーシップと教育委員会のバックアップ
校長: 外部人材の活用を含めたチーム学校としての経営、経営方針の共有等。
教育委員会: 人的・物的、体制づくりに関わる環境整備や連携・協働を支援する等。

提言を踏まえ、通常の学級担任を対象とした「手引き書」を作成した。学校の1年間の流れに沿ったストーリー仕立てとした。内容は以下の10項目。

- ① 通級による指導の理解と教育課程の編成等
- ② 的確な実態把握
- ③ 個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成と活用
- ④ 情報交換・情報共有の工夫
- ⑤ 授業参観等の活用
- ⑥ 通級による指導を通常の学級に生かす工夫
- ⑦ 保護者、関係機関との連携
- ⑧ 研修
- ⑨ 管理職のリーダーシップ
- ⑩ 教育委員会による体制整備



独立行政法人
国立特別支援教育総合研究所

研究代表者: 澤田 真弓

「特別支援学校(知的障害)に在籍する自閉症のある幼児児童生徒の実態の把握と指導に関する研究—目標のつながりを重視した指導の検討—」

①研究概要

全国の特別支援学校(知的障害)を対象にアンケート調査を行い、各学部における自閉症のある子どもの在籍状況、自閉症教育の取組状況とその成果及び課題を明らかにした。

研究協力機関での実践研究から、教師が自閉症のある子どもの目標設定に際して、どういった視点や意図で目標設定(見直し)を行っているのか、目標のつながりを重視した指導を行うことで教師の指導や自閉症のある子どもに対する捉えの変容について検討した。

②研究成果

調査の結果、各学部において自閉症のある子どもの在籍数が増加しており、特に高等部で顕著であることが示された。また、多くの学校の各学部で、自閉症の特性を踏まえた取組が定着していることが明らかとなった。

実践研究を通して、自閉症のある子どもの指導で目標のつながりを重視することの意義と目標設定(見直し)のポイントを明らかにした。

研究協力機関においては、子どもにつけたい力(目標)が明確になったことで授業場面で子どもの姿を客観的に捉えることができるようになった、子どもの学びを拡げ深めていくことができた、教師の子どもに対する捉えや関わり方が肯定的に変容した、自閉症のある子どもの実態に応じた授業改善につながった等の成果が報告された。

③成果物

○リーフレット「特別支援学校(知的障害)での自閉症教育の取組状況と課題」<http://www.nise.go.jp/nc/wysiwyg/file/download/7/1283>

○リーフレット「自閉症のある子どもの指導目標の設定・見直しにおけるポイント—子どもの主体的な学びを引き出すために—」

<http://www.nise.go.jp/nc/wysiwyg/file/download/1/1656>



発達障害等のある生徒の実態に応じた高等学校における通級による指導の在り方に関する研究 -導入段階における課題の検討-

①研究概要

平成30年度より高等学校においても通級による指導が開始されるにあたり、円滑に導入するための課題との方策及び発達障害等のある生徒の実態に応じた在り方について、都道府県アンケート調査（文科省との共同実施）、研究協力機関の取組等から検討し、全ての高校教員におさえて欲しいポイントとしてまとめた。

②研究成果

導入段階における課題

- (1) 通級による指導の位置づけ
- (2) 教育課程編成と単位認定
- (3) 指導内容（自立活動）
- (4) 対象生徒のニーズ把握と決定のプロセス
- (5) 担当教員の配置・専門性
- (6) 実施校、実施形態の設定
- (7) 教職員の理解、校内支援体制
- (8) 制度に関する説明・周知

全ての高校教員におさえて欲しいポイント （課題に対する方策）

- (1) 教職員全体の共通理解をどう図るか
- (2) 校内支援のリソースの機能や役割をどう考えるか
- (3) 担当教員の配置と専門性をどう考えるか
- (4) 意義や目的に関する説明と周知をどう図るか
- (5) 関係機関との連携、地域資源の活用をどう進めるか
- (6) 生徒のニーズ把握と通級の判断をどう考えるか
- (7) 特別の教育課程の編成をどう考えるか
- (8) 自立活動に相当する指導の内容をどう考えるか
- (9) 指導の評価と単位認定をどう考えるか
- (10) 進路指導に関する指導をどう考えるか

③成果物

・高等学校教員のための「通級による指導」ガイドブック

<http://www.nise.go.jp/nc/wysiwyg/file/download/1/1719>

高等学校における通級による指導では、生徒の自尊感情や自己理解、二次的な障害の予防という視点が重要。発達障害等のある生徒の気持ちを日常的に受け止め、心理面、情緒面の対応ができる場としての役割も期待される。

研究成果物リスト①

(令和2年2月現在)

当研究所の近年の研究成果を教育現場に還元するために、研究成果報告書以外の研究成果物をリストにして提供します。都道府県教育委員会や教育センターの各担当者等が研修会や研究協議会を企画・実施する際に、こうした研究成果物を活用してもらえるように今後、当研究所のホームページでも情報提供していきます。

1.書籍

知的障害	「知的障害のある子どもと共に学ぶ」を考えるー北欧の実践をふまえてー (株)ジ・アース教育新社, ISBN978-4-86371-489-2 平成31年1月
教育課程	小学校・中学校 通常の学級の先生のための手引き書 一通級による指導を通常の学級での指導に生かすー (株)ジ・アース教育新社, ISBN978-4-86371-450-2 平成30年2月
知的障害	育成を目指す資質・能力を踏まえた教育課程編成の在り方ーアクティブラーニングを活用した各教科の目標・内容・方法・学習評価の一体化ー (株)ジ・アース教育新社, ISBN978-4-86371-446-5 平成30年1月
インクル関連	インクルーシブ教育システム構築に向けた地域における体制づくりのグランドデザインー文部科学省モデル事業等の実践を通じてー (株) 東洋館出版社, ISBN978-4-491-03374-7 平成29年7月
インクル関連	インクルーシブ教育システム構築のための学校における体制づくりのガイドブックー全ての教員で取り組むためにー (株) 東洋館出版社, ISBN978-4-491-03373-0 平成29年7月
病弱	病気の子どもの教育支援ガイド (株) ジ・アース教育新社, ISBN978-4-86371-406-9 C3037 平成29年3月
重複障害	手厚い支援を必要としている子どものための情報パッケージ「ぱれっと (PALETTE)」ー子どもが主体となる教育計画と実践をめざしてー (株)ジ・アース教育新社, ISBN978-4-86371-372-7平成28年9月
知的障害	育成を目指す資質・能力をはぐくむための知的障害教育における学習評価の実践ガイドー学習評価の9実践事例を踏まえてー (株)ジ・アース教育新社, ISBN978-4-86371-384-0 C3037 平成28年9月
肢体不自由	特別支援学校(肢体不自由)におけるアシスティブ・テクノロジー活用のためのガイドー組織的な取組の促進をめざしてー (株) ジ・アース教育新社, ISBN978-4-86371-286-7 平成26年11月
インクル関連	すべての教員のためのインクルーシブ教育システム構築研修ガイド (株) ジ・アース教育新社, ISBN978-4-86371-249-2 平成26年1月
インクル関連	共に学び合うインクルーシブ教育システム構築に向けた児童生徒への配慮・指導事例ー小・中学校で学習している障害のある児童生徒の12事例ー (株) ジ・アース教育新社, ISBN978-4-86371-250-8 平成26年1月

研究成果物リスト②

2.リーフレット

視覚障害	「視覚障害を伴う重複障害の児童生徒等の指導に関する研究」 ー特別支援学校（視覚障害）における指導を中心にー（近日発行・HP公開予定）
病弱	精神疾患及び心身症のある児童生徒の教育的支援・配慮に関する研究-Co-MaMe（連続性のある多相的多階層支援）ー（近日発行・HP公開予定）
教育課程	通常の学級と通級による指導の学びの連続性に焦点を当てて 平成30年3月 http://www.nise.go.jp/nc/wysiwyg/file/download/1/1716
自閉症	自閉症のある子どもの指導目標の設定・見直しにおけるポイントー子どもの主体的な学びを引き出すためにー http://www.nise.go.jp/cms/resources/content/385/D_356.pdf 平成30年3月
インクル関連	我が国のインクルーシブ教育システム構築に関する総合的研究 http://www.nise.go.jp/cms/resources/content/14210/00.B_314_all.pdf 平成29年12月
自閉症	特別支援学校（知的障害）に在籍する自閉症のある幼児児童生徒の実態の把握と指導に関する研究ー特別支援学校（知的障害）での自閉症教育の取組に関する調査（速報）ー http://www.nise.go.jp/cms/resources/content/7412/b_309.pdf 平成29年3月
重複障害	重複障害：みなさまの身近に視覚と聴覚の両方に障害のある「盲ろう」のお子さんはいらっしゃいませんか？ http://www.nise.go.jp/cms/news/detail.8.12961.html 平成29年2月
ICT・AT	特別支援教育でICTを活用しよう http://www.nise.go.jp/cms/resources/content/12589/20161205-143141.pdf 平成28年11月
知的障害	知的障害教育における組織的・体系的な学習評価の推進を促す方策に関する研究ー特別支援学校（知的障害）の実践事例を踏まえた検討を通じてー http://www.nise.go.jp/cms/resources/content/11392/20160224-112258.pdf 平成27年5月

3.ガイドブック、事例集

聴覚障害	聴覚障害教育 指導実践事例集 http://nc.nise.go.jp/study/failure_list/hearing/case 平成30年3月
教育課程	小学校・中学校管理職のための特別支援学級の教育課程編成ガイドブックー試案ー http://www.nise.go.jp/cms/7,11519,32,142.html 平成28年3月
聴覚障害	聴覚障害教育Q&A ～聴覚に障害のある子どもの指導・支援～ http://www.nise.go.jp/cms/resources/content/11539/20160414-215751.pdf 平成28年3月
視覚障害	視覚障害教育用触察立体教材作成のための3Dプリンター活用ガイドブック http://www.nise.go.jp/cms/resources/content/10825/20150916-154900.pdf 平成27年3月
言語障害	「ことばの教室」ことはじめ http://www.nise.go.jp/cms/resources/content/10478/20150514-180955.pdf 平成27年3月
病弱	病弱教育支援冊子 http://www.nise.go.jp/portal/elearn/shiryou/byoujyaku/supportbooklet.html 平成24年12月

研究成果物リスト③

4.ガイドライン

ICT・AT	デジタル教科書ガイドライン http://www.nise.go.jp/cms/7,9717,32,142.html 平成24年度～25年度 専門研究A研究成果報告書「デジタル教科書・教材の試作を通じたガイドラインの検証ーアクセシブルなデジタル教科書を目指して」21～22頁 平成26年3月
--------	---

5.調査報告

知的障害	インクルーシブ教育場面における知的障害児の指導内容・方法の国際比較-フィンランド、スウェーデンと日本の国際比較から- 平成30年3月 http://www.nise.go.jp/nc/wysiwyg/file/download/1/1855
生涯学習	障害者の生涯学習活動に関する実態調査 http://www.nise.go.jp/cms/resources/content/7412/b-315.pdf 平成30年3月
インクル関連	インクルーシブ教育システム構築の現状に関する調査報告書 http://www.nise.go.jp/cms/resources/content/14210/00.B_314_all.pdf 平成29年12月
言語障害	全国難聴・言語障害学級及び通級指導教室実態調査 http://www.nise.go.jp/cms/resources/content/13964/b-312zentai.pdf 平成29年9月
肢体不自由	全国小・中学校肢体不自由特別支援学級での指導等に関する調査 http://www.nise.go.jp/cms/resources/content/7412/20160307-190827.pdf 平成28年1月
教育課程	特別支援学校における教育課程の評価の現状と課題に関する調査 http://www.nise.go.jp/cms/7,11274,32,142.html 平成27年10月
自閉症	自閉症・情緒障害特別支援学級及び知的障害特別支援学級に在籍する自閉症のある児童生徒の自立活動の指導に関する調査 http://www.nise.go.jp/cms/resources/content/7412/20151020-175959.pdf 平成27年10月

お問い合わせ：国立特別支援教育総合研究所 研究企画部
r-kikakubu@nise.go.jp

どのように研究成果を入手すれば良いのかについて

①HP検索
国立特別支援教育総合研究所
又は、
<https://www.nise.go.jp/nc/>



本文へ▼

文字サイズ 大 中 小

表示色 標準 1 2

お問い合わせ

ホーム

特総研とは

研究

研修・セミナー

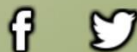
報告書・資料

各障害における
関連情報

English

②報告書の場合
は、ここをクリック。

障害のある子供
一人一人の教育的ニーズに対応した
教育の実現に貢献します。





ホーム

特総研とは

研究

研修・セミナー

報告書・資料

各障害における
関連情報

English

報告書・資料

詳細メニュー一覧

● 特別支援教育情報データベース

- [研究所の検索データベース](#)
- [その他のデータベース・リンク集](#)

● 研究成果・刊行物

- [研究紀要・英文紀要](#)
- [重点推進研究/プロジェクト研究/特別研究報告書](#)
- [専門研究/調査研究/課題研究/一般研究報告書](#)
- [共同研究報告書](#)
- [セミナー資料・広報・総合誌等/教育・研究資料](#)
- [科学研究費報告書](#)
- [特別支援教育研究論文集](#)
- [市販書籍一覧](#)
- [研究成果物リスト](#)
- [教育相談刊行物](#)
- [国際関連報告書](#)

③一般研究報告書の場合は、ここをクリック。

ホーム

特総研とは

研究

研修・セミナー

報告書・資料

各障害における
関連情報

English

専門研究/調査研究/課題別研究/一般研究報告書

※刊行物の入手方法については、「[刊行物の入手方法について](#)」を参照ください。

④研究課題を選択して、
クリック。

区分	刊行物名 【研究課題名】	研究代表者／担当研究部等	発行
B-328	特別支援学校（視覚障害）における重複障害幼児児童生徒に関する実態調査 調査報告書 [1M pdfファイル] PDF	金子 健	30年9月
B-327	インクルーシブ教育場面における知的障害児の指導内容・方法の国際比較 [39M pdfファイル] PDF	明宮 茂	30年3月
B-325	交流及び共同学習の推進に関する研究 [13M pdfファイル] PDF	定岡 孝治	30年3月
B-324	インクルーシブ教育システム構築に向けた研修に関する研究 [7M pdfファイル] PDF	久保山茂樹	30年3月

特教研 B-325

地域実践研究

交流及び共同学習の推進に関する研究

(平成 28～29 年度)

研究成果報告書

平成30年3月

 独立行政法人
国立特別支援教育総合研究所

⑤ダウンロード

注釈

ファイルを結合

ページを整理

墨消し

保護

PDF を最適化

入力と署名

Adobe Sign

レビュー用に送信

その他のツール

Acrobat Pro DCで
PDFを変換・編集
[今すぐ無料でお試し](#)

2) 保護者の付き添いが必須か否かによる比較

表 3-69 保護者の付き添いが必須か否かによる比較（全体・小学部）

	実施率が 高い	実施率が 低い	χ^2 二乗検定 による P 値	Yates の補正 P 値
保護者の付き添いを 必須としている	6	11	0.024	0.072
その他（一部付き添い、付き 添いはいない等）	6	1		

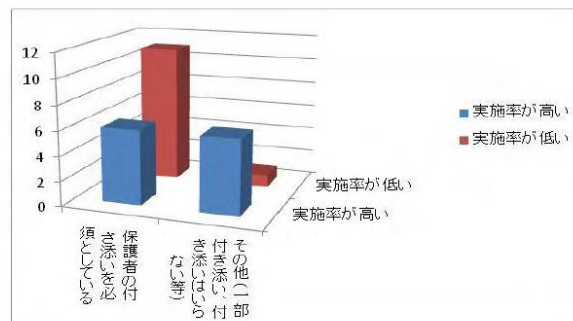


図 3-38 保護者の付き添いが必須か否かによる比較（全体・小学部）

表 3-70 保護者の付き添いが必須か否かによる比較（中学部）

	実施率が 高い	実施率が 低い	χ^2 二乗検定 による P 値	Yates の補正 P 値
保護者の付き添いを 必須としている	7	10	0.177	0.369
その他（一部付き添い、付き 添いはいない等）	5	2		

居住地校交流における保護者の付き添いが必須か否かにより、「幼稚園・小学部・中学部」、「小学部」における実施率の高さに有意な差（保護者の付き添いを必須としない学校の方が居住地校交流の実施率が高い）が見られた。Yates の補正では有意水準は下がるが、傾向は見られる。

5) 居住地校交流を行わない期間に便りの交換を行っているか否かによる比較

表 3-70 交流を行わない期間に便りの交換を行っているか否かによる比較（全体）

	実施率が 高い	実施率が 低い	χ^2 二乗検定 による P 値	Yates の補正 P 値
便りの交換を行っている	5	0	0.011	0.044
便りの交換を行っていない	7	12		

⑥個人保管
学校の共有ファイルに

研究成果のアウトプット



サマリー
(ポンチ絵)
を含む。

Web版の報
告書

章ごとに分けて公開

先生方向け カラー版

Web版の
ガイドブック
リーフレット
小冊子

報告書の一部を詳細に、
又は異なる角度からの
研究・分析を報告

研究紀要
学会誌への
投稿

教育委員会や教育センターの研修
等で活用できるスライドを制作

教育委員会
等が活用でき
るスライド制
作

Web版の報告
書活用コンテ
ツ・
活用の手引書

研究員の教育
委員会・
学校訪問時
の普及活動

研究員が教育委員会・セン
ター・学校へ行った際に、研究
成果等について紹介

Webからダウンロードする手順について、
動画と紙媒体で、教育委員会、学校に案
内

研究成果報告



独立行政法人
国立特別支援教育総合研究所

- 先生方向け
- 教育委員会・教育センター向け
- 研究者向け
- 先生方・教育委員会・教育センター向け

お知らせ

国立特別支援教育総合研究所に
に関する情報は、

<https://www.nise.go.jp/nc/>にアクセス

または、

nise



で検索！

